

200500643A

平成17年度 厚生労働科学研究費補助金

新興・再興感染症研究事業

大規模感染症発生時の効果的かつ適切な
情報伝達の在り方に関する研究

研究報告書

主任研究者 丸井英二（順天堂大学医学部公衆衛生学教室）

目次

研究報告

- 大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究（総括） . . . 1
順天堂大学 丸井英二
- リスクコミュニケーショントレーニングの試み . . . 3
慶應義塾大学 吉川肇子、 順天堂大学 堀口逸子
- 住民への普及啓発が必要な感染症は何か
—行政機関感染症対策担当を対象とした質的調査— . . . 31
順天堂大学 堀口逸子、 柏木知子
- 行政組織間・内部における情報伝達の課題に関する研究 . . . 41
秋田県衛生科学研究所 八幡裕一郎
- 感染症の情報伝達に関するアンケート . . . 49
順天堂大学 堀口逸子、 野村真利香

研究班名簿

. . . 62

平成 17 年度 厚生労働科学研究事業（新興・再興感染症研究事業）
大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究

主任研究者 丸井英二（順天堂大学医学部公衆衛生学教室）

「危険らしいけれど、今まであまりなじみがない」と思われている感染症が、わが国で新規に発生したり、新たに輸入されたりしたとき、その感染症に対する国民の全般的反応はどのようになるだろうか。そもそも、そのような感染症には普段から関心はどの程度あるのだろうか。そのような平常時の関心や知識の程度が十分に把握されていない状況の中では、ひとたび感染症とく輸入感染症が流行するような事態が発生すれば、どのようになるのか想定しようがない。起きてしまった場合には危機管理が重要である。しかし、危機が発生するのを予防することはさらにいっそう重要である。

起きてしまったからでは遅い。感染症に関するリスクコミュニケーションはそのような感染症の発生を想定して、日常的な設定の中で何をするのかを考えておく必要から生じてくる。

そこで、まずそうした国民の感染症に関するリスク認知について調査・検討し、その上でいかなる情報が感染症の発生時に適切に機能するのかを探索し、それがどのように伝達されるべきなのかについて提言していくことを目的として本研究は開始された。

今年度は、

(1)国民の知識として持つべき感染症の優先順位を行政がどのようにとらえているのかを明らかにするために、国などの行政機関に勤務する感染症担当の行政官に対してデルファイ法による調査を実施した。これにより、行政の考える国民の知識として持つべき感染症の優先順位が明確となった。1位：結核、2位：インフルエンザ、3位：HIV／AIDS、4位：O-157、5位：性器クラミジア、となっていた。

こうした、優先度が高いと考えられた感染症に関して、それぞれの立場の人々の知識の現状を明らかにすることによって、今後どのような情報を国民に発信していくのか、その内容が明らかとなる。

(2)前項の調査を基にして、地方自治体での情報伝達の実態を調査した。これによって、国民への情報伝達の媒体として何が不足しているのか明らかとなり、新たな情報媒体についての検討が可能となる。そのために、地方自治体を対象とした質問紙調査を実施し、

情報伝達に対しての考え方、トレーニングの実施状況、情報伝達に対する主観的な評価、住民の感染症に対する知識の現状、情報媒体の充足度、情報媒体（厚生労働省 Q&A）に対する評価を実施した。

(3)危機の場合の情報伝達の在り方を検討した。これによって、大規模感染症発生時における情報体制が明確となる。感染症発生に関してシミュレーションを行うことによって、社会的混乱を回避することが可能となるであろう。それと同時に、情報伝達における情報発信者のスキル向上のための教育トレーニングも必要である。そこで、平成 17 年度はスウェーデンから専門家を招聘し、研修会を開催した。

この研修では、危機の場合の情報伝達について全国の行政機関に勤務する感染症担当者約 50 名と新型インフルエンザの発生を想定した情報伝達のシミュレーションを実施し、評価を得た。これは大変に好評で、情報伝達のスキルアップに役立ったという評価を得た。その結果、参加者の約 8 割が今後もシミュレーションを実施することが必要と回答した。

(4)また、ツールの開発に着手した。行政での調査において上位の感染症としてあがった結核やノロウイルス、O-157 の事例について関係者にヒアリングを実施し、クロスロードゲームを試作している。これにより、情報媒体の有用性について検証し、情報媒体の質の向上を図ることができる。

(5)継続的にメディア報道の実態についても検証を続けている。とくに鳥インフルエンザを含む新型インフルエンザのメディア報道に関する分析を行っている。

以上のように、本研究班では大規模な感染症発生を想定して、疾患の特性に応じた行政やマスメディアの対応について提案をすべく、調査研究を続けてきている。それは発生時に国民がパニックに陥ることなく適切な対応を可能とするような平常時からの情報伝達のあり方の提案でもある。現実には、いつ、どのような感染症が流行するかの予測は依然として確実ではなく、一定のリスクを前提にした対処行動を国民とともに作り上げていく必要がある。

平成17年度 厚生労働科学研究事業(新興・再興感染症研究事業)
大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究

リスクコミュニケーショントレーニングの試み

吉川肇子 (慶應義塾大学商学部助教授)

堀口逸子(順天堂大学医学部公衆衛生学教室)

研究要旨

リスクコミュニケーション研修会を実施した。参加者のリスクコミュニケーションの状況を把握し、研修会についての評価のために、質問紙調査を実施した。

その結果、リスクコミュニケーションの重要性などの認識は非常に高い状況が伺えたが、資料が不足していたり、研修会への参加が十分でないなど課題が明らかとなった。

今後は、資料を充実させ、研修を実施していく必要があると考えられた。

A目的

リスクコミュニケーションの研修を実施し今後の研修のあり方について明らかにする。

たいと回答したものが全体の3/4以上であった。

リスクコミュニケーションに関する質問では、その重要性を認識していたが、研修会によって、その能力への自信については、参加前より自信がついたのは46.7%に留まっていた。今後の研鑽については、とても必要と思っているものが80%を超えていた。現在の職場において、リスクコミュニケーションの理解は十分ではないと感じており(約70%)、リスクコミュニケーションの工夫が必要(90%以上)と回答していた。また改善できる場所があると思ったものも同様であった。研修内容について、職場での共有の必要がありと思うものも90%を超えていた。

B対象及び方法

平成17年10月に、リスクコミュニケーション研修を実施し、参加者へ質問紙調査を行った。リスクコミュニケーション研修は、新型インフルエンザの発生をシミュレーションしたものである(資料参照)。

リスクコミュニケーションの資料であるが、十分ある、まあまああるとしたものは8名で約1/4に留まっていた。またリスクマネジメントに関する書類も同様の傾向にあった。またこれまでの研修会の参加経験に関して医も、あると回

C結果

分析対象は参加者のうち、質問紙に回答があったもの30名である。参加者はその職種についてから3年未満のものが全体の3/4を占めていた。研修会は、レクチャーとグループワークからなっていたが、テーマ、レクチャー、グループワークのいずれも「良かった」と回答していた。また、理解度についても同様であった。次年度以降の研修の実施についても、賛歌し

答したものは7名に留まっていた。(資料参照)

D 考察及び結論

リスクコミュニケーションの重要性などは認識できていたが、資料が不足し、また研修会などの参加もあまり見られなかった。今後は、資料を充実させ、また研修を実施していくことが必要と考えられた。

E 健康危険情報

なし。

F 研究発表

なし。

G 知的財産権の出願・登録状況

なし

H 研究協力者

拡大研究会議アンケート

2005/10/12～13

本日はお忙しい中、ご参加いただき、ありがとうございます。よりよい研究を進めていくため、皆様のご意見が伺えれば幸いです。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

問 1 今日の会議をどのようにお感じになったかおたずねします。以下の①から③までの項目それぞれ該当する番号ひとつに○をつけてください。

- ①テーマ …………… (良かった) 1—2—3—4 (悪かった)
②レクチャー …………… (良かった) 1—2—3—4 (悪かった)
③グループワーク …………… (良かった) 1—2—3—4 (悪かった)

問 2 あなたは会議の内容について理解することができましたか。該当する番号ひとつに○をつけてください。

1. 十分できた 2. どちらかといえばできた 3. どちらかといえばできなかった 4. できなかった

問 3 あなたは、来年以降このような会議を開催した場合に参加したいですか。以下の項目の該当する番号ひとつに○をつけてください。

- 来年以降もこのような会議に …………… (参加したい) 1—2—3—4 (参加したくない)

問 4 次回は、どのような内容を希望されますか?具体的にお書きください(例示をしても可。「訓練」「講義」など)

問 4 あなたはリスクコミュニケーションについてどう思いますか。

1. とても重要 2. まあまあ重要 3. あまり重要でない 4. ほとんどない重要でない

問 5 あなたは、この会議に出席して、正しく情報伝達できる自信ができましたか

1. 参加前より自信がついた 2. 変化なし 3. 参加前より自信がなくなった

問 6 あなたはリスクコミュニケーションについて今後研鑽が必要であると思いますか

1. とても思う 2. まあまあ思う 3. あまり思わない 4. ほとんど思わない

問 7 あなたの職場において、リスクコミュニケーション(情報伝達)について工夫が必要であると思いますか

1. とても思う 2. まあまあ思う 3. あまり思わない 4. ほとんど思わない

問 8 いわゆるリスクコミュニケーションについてあなたの考えをおたずねします。

あなたの職場において、リスクコミュニケーション(情報伝達)について改善できる場所があると思いませんか

1. とても思った 2. まあまあ思った 3. あまり思わなかった 4. ほとんど思わなかった

問 9 今日の内容について職場(関連部署を含む)で共有する必要があると思いますか

1. そう思う 2. どちらかといえばそう思う 3. どちらかといえばそう思わない 4. そう思わない

問 10 あなたは、リスクコミュニケーションに関する資料(書籍など)を持っていますか

1. 十分ある 2. まあまあある 3. あまりない 4. ほとんどない

●裏面に続く

アンケート回答者30名の内訳はつぎのとおり

職種	在籍年数	人数
行政職	1年未満	7
	1年～3年未満	9
	3年～5年未満	1
	5年～10年未満	
	10年以上	2
	計	19
研究職	1年未満	2
	1年～3年未満	2
	3年～5年未満	3
	5年～10年未満	
	10年以上	
	計	7
その他	1年未満	2
	1年～3年未満	1
	3年～5年未満	
	5年～10年未満	
	10年以上	
	不明	1
	計	4
	計	30

問1. 今日の会議をどのように感じましたか。

【①テーマ】

職種	在籍年数	良かった ←			→ 悪かった		無回答	総計
		1	2	3	4			
行政職	1年未満	4	2	1				7
	1年～3年未満	7	2					9
	3年～5年未満	1						1
	5年～10年未満							
	10年以上	1	1					2
	計	13 (68.4%)	5 (26.3%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満		2					2
	1年～3年未満	2						2
	3年～5年未満		3					3
	5年～10年未満							
	10年以上							
	計	2 (28.6%)	5 (71.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
その他の	1年未満	1	1					2
	1年～3年未満	1						1
	3年～5年未満							
	5年～10年未満							
	10年以上							
	無回答		1					1
	計	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	計	17 (56.7%)	12 (40.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)

問1. 今日の会議をどのように感じましたか。

【②レクチャー】

職種	在籍年数	良かった ←			→ 悪かった		無回答	総計
		1	2	3	4			
行政職	1年未満	2	4		1		7	
	1年～3年未満	5	4				9	
	3年～5年未満		1				1	
	5年～10年未満							
	10年以上	1	1				2	
	計	8 (42.1%)	10 (52.6%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)	
研究職	1年未満		2				2	
	1年～3年未満	1	1				2	
	3年～5年未満		2	1			3	
	5年～10年未満							
	10年以上							
	計	1 (14.3%)	5 (71.4%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)	
その他	1年未満	1	1				2	
	1年～3年未満	1					1	
	3年～5年未満							
	5年～10年未満							
	10年以上 不明		1				1	
	計	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)	
	計	11 (36.7%)	17 (56.7%)	1 (3.3%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)	

問1. 今日の会議をどのように感じましたか。

【③グループワーク】

職種	在籍年数	良かった ←			→ 悪かった		無回答	総計
		1	2	3	4			
行政職	1年未満	4	2	1				7
	1年～3年未満	5	3				1	9
	3年～5年未満		1					1
	5年～10年未満							
	10年以上	2						2
	計	11 (57.9%)	6 (31.6%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)		19 (100.0%)
研究職	1年未満		2					2
	1年～3年未満	2						2
	3年～5年未満	1	2					3
	5年～10年未満							
	10年以上							
	計	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		7 (100.0%)
その他	1年未満	2						2
	1年～3年未満		1					1
	3年～5年未満							
	5年～10年未満							
	10年以上 不明		1					1
	計	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		4 (100.0%)
	計	16 (53.3%)	12 (40.0%)	1 (3.3%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)		30 (100.0%)

問2. あなたは会議の内容について理解することができましたか。

職種	在籍年数	十分できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	無回答	総計
行政職	1年未満	2	4	1			7
	1年～3年未満	2	6	1			9
	3年～5年未満		1				1
	5年～10年未満						
	10年以上	1	1				2
	計	5 (26.3%)	12 (63.2%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満	2					2
	1年～3年未満	2					2
	3年～5年未満	2	1				3
	5年～10年未満						
	10年以上						
	計	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
その他	1年未満	1	1				2
	1年～3年未満	1					1
	3年～5年未満						
	5年～10年未満						
	10年以上 不明		1				1
	計	2 (50.0%)	2 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	計	13 (43.3%)	15 (50.0%)	2 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)

問3. あなたは来年以降このような会議を開催した場合に参加したいですか。

職種	在籍年数	参加したい ←		→参加したくない		無回答	総計
		1	2	3	4		
行政職	1年未満	3	3	1			7
	1年～3年未満	7	2				9
	3年～5年未満		1				1
	5年～10年未満						
	10年以上	1	1				2
	計	11 (57.9%)	7 (36.8%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満	1	1				2
	1年～3年未満	2					2
	3年～5年未満		3				3
	5年～10年未満						
	10年以上						
	計	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
その他の	1年未満	2					2
	1年～3年未満		1				1
	3年～5年未満						
	5年～10年未満						
	10年以上						
	計	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	不明			1			1
	計	2 (50.0%)	1 (25.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	計	16 (53.3%)	12 (40.0%)	2 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)

次回はどのような内容を希望されますか。

事例を用いた講義および討議、このような講義を行うなら討議の内容についての戻り、(新たなシチュエーションの発現、一律のシステムによる採点など)があった方がいい。	/行政職 /1年未満
次回は食品の部に出席したいと思います。	/行政職 /1年未満
本日のように講義+訓練(演習)の形式が望ましいと思います。グループディスカッションも有効だと思いますが、人数を養成するには大変ですが、がんばって欲しいと思いました。	/行政職 /1年未満
もう少し、リスクコミュニケーションに比重をかけてもらいたいです。伝える内容、方法などについて。	/行政職 /1~3年未満
訓練をお願いしたい。特に、伝え方という点で、スキルが不足していると感じています。	/行政職 /1~3年未満
行政的な判断、対等についての訓練	/行政職 /1~3年未満
新興感染症も有難かったのですが、水系感染etc. 爆発的に患者数が発生する様な事例を検討することも必要だと思います。	/行政職 /10年以上
今回のテーマで、「国民にどのように伝えるのか？」の部分に焦点を当てたものなら出席してみたい。	/研究職 /1年未満
ケーススタディ、専門家のシンポ	/研究職 /1~3年未満
実際に、最近カストロフィーを味った国の担当者による、意見。(英国、米国、インドネシア、ベトナム) 文化的にスウェーデン(北部欧州)とは、カラーを異にする国のコミュニケーション手法について。(e.g. USA、韓国、中東のいずれか、英国orスペイン)	/研究職 /3~5年未満

問4. あなたはリスクコミュニケーションについてどう思いますか。

職種	年数	とても重要	まあまあ重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	総計
行政職	1年未満	6	1			7
	1年～3年未満	9				9
	3年～5年未満	1				1
	5年～10年未満					
	10年以上	2				2
	計	18 (94.7%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満	2				2
	1年～3年未満	2				2
	3年～5年未満	2	1			3
	5年～10年未満					
	10年以上					
	計	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
その他	1年未満	2				2
	1年～3年未満	1				1
	3年～5年未満					
	5年～10年未満					
	10年以上 不明	1				1
	計	4 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	計	28 (93.3%)	2 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)

問5. あなたはこの会議に出席して、正しく情報伝達できる自信ができましたか。

職種	在籍年数	参加前より 自信がついた	変化なし	参加前より 自信がなくなった	無回答	総計
行政職	1年未満	3	4			7
	1年～3年未満	3	4		2	9
	3年～5年未満	1				1
	5年～10年未満					
	10年以上	2				2
	計	9 (47.4%)	8 (42.1%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満	1	1			2
	1年～3年未満		1		1	2
	3年～5年未満	1	2			3
	5年～10年未満					
	10年以上					
	計	2 (28.6%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	1 (14.3%)	7 (100.0%)
その他の	1年未満	2				2
	1年～3年未満	1				1
	3年～5年未満					
	5年～10年未満					
	10年以上					
	不明		1			1
	計	3 (75.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	計	14 (46.7%)	13 (43.3%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	30 (100.0%)

問6. あなたはリスクコミュニケーションについて今後研鑽が必要であると思いますか。

職種	在籍年数	とても 思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	ほとんど 思わない	無回答	総計
行政職	1年未満	7					7
	1年～3年未満	9					9
	3年～5年未満	1					1
	5年～10年未満						
	10年以上	1	1				2
	計	18 (94.7%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満	1	1				2
	1年～3年未満	2					2
	3年～5年未満	1	2				3
	5年～10年未満						
	10年以上						
	計	4 (57.1%)	3 (42.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
その他の	1年未満	2					2
	1年～3年未満		1				1
	3年～5年未満						
	5年～10年未満						
	10年以上 不明	1					1
	計	3 (75.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (100.0%)
	計	25 (83.3%)	5 (16.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	30 (100.0%)

問7. あなたの職場において、リスクコミュニケーション(情報伝達)について工夫が必要であると思いますか。

グループ	職種	在籍年数	とても 思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	ほとんど 思わない	無回答	総計
感	行 政 職	1年未満	4	3				7
		1年～3年未満	7	2				9
		3年～5年未満		1				1
		5年～10年未満						
		10年以上	1	1				2
		計	12 (63.2%)	7 (36.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	19 (100.0%)
染	研 究 職	1年未満	2					2
		1年～3年未満	1	1				2
		3年～5年未満	2	1				3
		5年～10年未満						
		10年以上						
		計	5 (71.4%)	2 (28.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
症 の 他	そ の 他	1年未満	2					2
		1年～3年未満	1					1
		3年～5年未満						
		5年～10年未満						
		10年以上						
		不明					1	1
計	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)		
計		20 (66.7%)	9 (30.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.3%)	30 (100.0%)	

問8. あなたの職場において、リスクコミュニケーション(情報伝達)について改善できるところがありましたか。

職種	在籍年数	とても 思った	まあまあ 思った	あまり 思わなかった	ほとんど 思わなかった	無回答	総計
行政職	1年未満	2	5				7
	1年～3年未満	4	4			1	9
	3年～5年未満		1				1
	5年～10年未満						
	10年以上	1	1				2
	計	7 (36.8%)	11 (57.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	19 (100.0%)
研究職	1年未満	1	1				2
	1年～3年未満		2				2
	3年～5年未満	2	1				3
	5年～10年未満						
	10年以上						
	計	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (100.0%)
その他	1年未満	1	1				2
	1年～3年未満	1					1
	3年～5年未満						
	5年～10年未満						
	10年以上 不明					1	1
	計	2 (50.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
	計	12 (40.0%)	16 (53.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.7%)	30 (100.0%)